

国民経済の循環：フローとストック
(レジメ)

2026. 6. 9

今井勝人

I. はじめに：現代社会の諸相

大衆社会、資産社会、情報社会、人口減少社会、豊かな社会、分断社会
本報告は経済循環のフローとストックという視角から資産社会を考える
第1歩とする。

フローとストックという視角＝再生産という視角＝経済循環

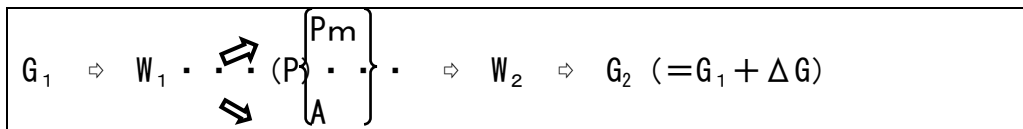
資産 ⇒ 生産 ⇒ 資産 ⇒ 生産 ⇒ 資産

II. 二つの経済学

(1) 原理論・段階論・現状分析という経済学体系（いわゆる宇野経済学）

① 原理論における価値増殖する運動体としての産業資本形式

運動体：フローにかかわる概念



* P_m = 流動資本 + 固定資本

* 国境のない世界、したがって政府部門も存在しない

② 資本にとっての問題：流通期間の存在

・ $W_2 \rightarrow G_2$ ：命がけの飛躍（マルクス）

・ 卸売資本、小売り資本、銀行資本、交通業、電信・電話産業等はこ
の問題を解決するために産業資本形式から派生した資本形式

・ 教育産業は A の能力向上 人的資本という考え方

③ なお残る問題：固定資本の存在 1 回の回転で投下資本を回収できない

④ 原理論における株式資本形式の登場

資本そのものを商品にする資本形式：株式会社の分割・売買、
資産

・ 株式資本の現実態：株式会社という会社制度

制度という以上、時代や国によって異なる：段階論、現状分析
論の対象 国家や国境のある世界

・ 株式会社論の主要論点

法人格、金融資本概念（大企業論）、資金調達（大株主と大衆株
主）株式会社の評価（株式価格＝配当金の資本還元）、
持株会社

(2) 初級マクロ経済学のモデル

投資乗数 $Y=C+I$
 $C=\alpha Y$
 $I=\text{一定}$

財政支出乗数 $y=C+I+G$
 $C=\alpha Y$
 $I=\text{一定}$

租税乗数 $Y=C+I+G-T$
 $C=\alpha(1-T)Y$
 $T=tY$
 $I=\text{一定}$

- (3) 段階論、現状分析論 構造分析の方法 経済政策
初級マクロモデルの拡充 時間選好の問題 利子率、固定資本の存在
投資関数、貯蓄関数はもとより、家計における住宅、耐久消費財購入
恒常所得仮説に基づく消費関数
経済政策

III. 「国民経済計算 (SNA)」におけるフローとストック

(1) 三つの SNA 計数

- ① 1968 SNA (1990 年基準) 1955—1998 『2000 年度年報 (確報)』
- ② 1993 SNA (2000 年基準) 1980—2009 『2009 年度 (確報)』
- ③ 2008 SNA (2020 年基準) 1994—2014 『2014 年度 (年次推計)』

ストック計数は 1969 年からの暦年計数

68SNA と 93SNA フロー計数の違いについては今井 (2018) を参照

この報告では③ (経済社会研究所、2025) を用いる。

ストックの区分が詳細 表 1

(2) 概観 (図 1) — (図 13)

(3) フローストックをつなぐもの

- ・ 所得支出勘定最後の「資本勘定・金融勘定」表 2

貯蓄・資本移転による正味資産の変動 = 資産の変動 - 貯蓄
資産の変動

= 総固定資本形成 - 固定資本減耗 + 在庫変動
+ 純貸出 (+) / 純借入 (-)

貯蓄 = 貯蓄 (純) = 貯蓄 (総) - 固定資本減耗

貯蓄 = 可処分所得 - 最終消費支出 表 3、表 4

- ・ 一国原経済レベルで土地取引はゼロ。 表 5、図 14

土地評価（額）の問題：原理論での地代論

原理論では土地所有者の存在を考えなくてよいのでは。

絶対地代と差額地代：円者は不要では。

この点については（今井、2025、論点 I -6、特に註 8）
を参照。

国家が他国の土地（領土）を購入するという発想

- ・ 固定資本減耗率 図 15
- ・ 固定資本減耗率と総固定資本形成 図 16
- ・ 貯蓄（純）率 図 17

IV. 経済主体別のフローとストック（未完）

図 18、図 19—図 22

V. 結びに代えて：資産課税の問題

固定資産（償却資産を含む）だけの課税 金融資産は聖域か？

資金（資本元本）非課税の原則？

課税時の固定資産評価の問題

相続税の問題 図 23

事業承継税制

会社清算時 資産としての他社株式と他社に対する債権の処分

かつての債権回収機構

参考文献

今井勝人（2018）：「租税収入の長期趨勢—1955 - 2014」（『武蔵大学論集』
第 65 巻、第 2・3・4 号）

今井勝人（2025）：「現代国家の二つの性格—軍事と福祉」（『武蔵大学論集』
第 72 巻、第 1・2・3・4 号）

小野善康（2022）：『資本主義の方程式—経済停滞と格差拡大の謎を解く』
（中公新書、2022）

末光大毅編著（2025）：『図説日本の税制（令和 6 年度版）』（財経詳報社）